



《将来に向けた取組方針》

戸田建設は、生物多様性の重要性を社員一人ひとりが認識し、建設業務に展開するために、「戸田建設 生物多様性行動指針」を策定し、生物多様性への対応を推進してきました。

持続可能な自然共生社会の実現を目指し、人間の様々な活動と自然環境との調和をバランス良く図りながら、グローバルな視点を持ち、建設事業を通じて生物多様性の保全と再生に努めています。

◆ビオトープによるエコロジカルネットワーク形成と在来植物の適用

筑波技術研究所においてビオトープを中心とした敷地内植生のモニタリングと研究を続けています。

施設屋上に整備したビオトープでは、飛来生物の状況から周辺の公園や樹林地をつなげる、エコロジカルネットワークの形成に寄与していることが確認されました。

さらに、つくば固有の地域性な在来植物を用いたビオトープ『つくば再生の里』を新たに造成し、地域本来の生物多様性を向上させるための研究もしています。



つくば再生の里 外観



地域性な在来植物トレサビリティ認定植栽プレート

◆災害復旧工事で生態系保全

東日本大震災で被災した津谷川の堤防復旧工事では、汽水域の塩性湿地という特異な環境の大規模モティグーションを成功させました。レッドリストに登録されている16種類の希少植物・底生生物が確認され、それらを保全するために新たな湿地を整備・再生、適切な移植を行いました。



底生生物の移植



小学生への環境教育